

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		岡山かなりや学園		公表日		令和7年 3月18日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		お誕生会や季節の行事など、いつもより参加人数が多いときには、使用する部屋を変えるなどの対応をしています。	グループの人数やきょうだいが一緒に来られたときには少し狭く感じる場合があります。できるだけ、広い部屋に変更するなどに対応していきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>			法令で必要とされる職員数を確保していますが、一人一人に合わせた支援を考えると、もう少し多い方が良いように思います。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		園舎の建て替えと共に、エレベーターを設置しました。また、館内Wi-Fi設備を整え、iPadを使って知らないことも視覚的に理解できるようにしています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		療育で使用した遊具や手がふれるところは、その都度拭き取りを行っています。	園庭が狭くなったため、どうしても室内での活動が主になっています。気候の良い時期には、近くの公園に行くなど、外での活動も取り入れるようにします。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		<input type="radio"/>		日々の業務に追われ、PDCAサイクルを意識できていない場合が多いです。業務改善のためにも、今後どのように取り組むかを職員全体で考えていきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者向け評価表の結果は職員間で回覧しています。必要に応じて、その結果を業務改善につなげるようにしています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			自発的に意見を出す職員の話は聞いていますが、「把握する機会」を設けている訳ではなく、意見が出にくい雰囲気にならないように気をつけたいと思います。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		前回は2022年(令和4年)に実施しました。今後も数年おきに実施する予定です。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		毎月1回、園内で療育検討などの勉強会を実施しています。外部の研修会にも交代で参加したり、職員を紹介して各自参加できるようにしています。	難聴以外の障害や全体発達について学べる機会も、もっと取り入れていきます。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		ホームページ上に公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		前期、後期に分けて保護者の方々にニーズの聞き取りを行い、評価を元に個別支援計画を作成しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		個別支援計画は、実際に療育を担当している職員、児童発達支援管理責任者、園長が協議の上、作成しています。	以前に比べて、話し合いの時間は短くなっています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		個別支援計画は担当で共有しています。	計画に沿った支援を心がけていますが、グループ療育時など、毎回個々に合わせた療育が毎回できていたとは言えません。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		定期的に発達・知能検査等を行っています。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		「本人支援」や「家族支援」については、具体的な支援内容を考えて示しています。	「移行支援」や「地域支援・地域連携」については、年齢や家庭状況によって想定していない場合があります。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		活動プログラムは担任が話し合っ決めていきます。	話し合いの時間がとりにくく、業務時間外になることが多いです。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		同じ活動を繰り返すことでことばが定着できる場合もあるため、個々に合わせてプログラムを考えています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの状況と、各家庭の事情にあわせて、ご家族と話し合って個別活動か集団活動を決めています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		基本的には療育前にチームで確認をし、療育後に振り返りを行うことにしていますが、時間の都合で療育後には記録の共有のみになることもあります。	毎日の療育前後の話し合いの時間をどのように確保するかは、園としての課題と考えて、令和7年度は療育の開始時間を統一し、療育担当職員が同じような時間に開始、終了できるようにします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		療育後には必ず記録を作成し、担任で共有しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に一度、評価を行い、次期の個別支援計画を作成します。	前期・後期だけではなく、途中でも支援計画の見直しが必要な場合もありますが、あまりできていません。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		関係機関との会議には、必ず担任が参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保育所等訪問支援事業や岡山県聴覚障害児支援中核機能強化事業で幼稚園・保育園・こども園・小学校に訪問し連携を行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		平行利用先や置学校幼稚部などはお互いの担任が訪問しあい、支援内容の情報共有と相互理解を図っています。保護者を通じて、支援内容を確認することもあります。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学前後に小学校等に訪問し、聞こえ方や補聴機器、望ましい配慮についての説明を行っています。	就学後、小学校や特別支援学校への訪問は、保護者からの希望があった場合に限られていて、状況把握ができていない場合もあります。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。		○	岡山市内の児童発達支援センターとは、連絡会や子ども支援部会への参加を通して、連携を図っています。	他の通所支援事業所については、園児が並行通園している事業所に限られます。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			職員研修に外部講師を招いたり、外部の研修に参加したりしていますが、十分とは言えません。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		岡山市自立支援協議会の子ども支援部会には、定期的に参加しています。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		園児はそれぞれ地域の保育所や認定こども園、幼稚園等に通っていますが、この地区の園との交流はできていません。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		療育時や療育後の時間を使って、保護者と話しています。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		外部から講師をお招きして研修会を行っています。療育担当者が年齢に合わせて、その時期に必要な研修会を行うこともあります。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時には重要事項説明書を用いて説明しています。運営規程については、療育室のある2階に設置しています。	報酬改定時には開始式の時に利用者負担等の変更についてお伝えしていますが、欠席された方にはプリント配布のみになっていることがあります。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別支援計画を作成する際には、必ず保護者のニーズを聞き取り、計画に反映させています。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		前期・後期に分けて個別支援計画を作成し、保護者に説明して同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		親子通園のため毎回療育時には必要な助言と支援を行っています。	両親が共働きで祖父母と通園していたり、多忙のため充分話をする時間がとれなかったりするご家庭もあります。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		令和5年度より保護者会を立ち上げ、今年度は保護者会からの依頼で、手話の学習会を行いました。また、小学生の集いの際に、保護者同士の交流や情報交換の機会を設けています。	偶発的に、長期休みや園行事の際にきょうだい同士の交流がみられることはありますが、機会を設けることはできていません。保護者会だけでなく、通常の療育の中でも保護者が交流しやすい状況を作っていく必要があると考えています。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		意見箱に入っていたご意見は、園からの回答をつけて2階の掲示板に掲示しています。	相談や申し入れがしやすい園になっているかどうかは不安です。さらに保護者の方々のご意見を訊く機会を増やしていこうと思います。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月お知らせを発行し、メールで送信しています。ホームページに療育や行事の様子を掲載しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取扱いには、充分留意しています。	集団療育時に家庭の様子を伺う場合もあり、配慮が足りなかったこともあるかと思っています。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもに対しては、必要に応じてジェスチャーやカードなどの視覚教材を使用します。聴覚障害の保護者が研修や交流に参加する場合には、手話通訳者を依頼しています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			事業所の行事に地域住民を招待したことはありません。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定し、毎月様々な想定で避難訓練を実施しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定しています。	非常災害の発生に備えて、4月には備蓄品を購入する予定です。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		入園前に医師の診断書を提出してもらっています。入園以降はその都度保護者に尋ねています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		入園時に食物アレルギーの有無を医師の診断書に記載して頂いています。給食はありませんが、おやつや調理時にも確認しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		避難訓練の際には、近隣住宅の火災や不審者など、様々な場面を想定して行います。	職員間で共通理解を図るため、さらに研修や訓練をおこなっていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		親子通園のため、保護者とも協力して子どもの安全を確保していきます。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットや事故が発生したら、状況や再発防止に向けての方策を朝礼等で共有しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		職員が外部で研修を受けてくると、報告書で共有するだけでなく、職員会議などで詳しく内容を報告しています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		親子通園のため身体拘束は基本的に考えられませんが、危険を防止するために腕や身体、頭を押さえる行為の際には、保護者に了解を得るようにしています。		